

「ジミヘンのレコードが未だに飾ってある街で」

元地域おこし協力隊 塗貴旭

先月、10月末に結婚式をしました。式場は東京の御茶ノ水にある「山の上ホテル」。まさか、ここで結婚式を自分がするとは思いませんでした。

このコラムでも度々登場する「御茶ノ水」という地名。山形でピンッ！とキタ方は、日本大学か明治大学の卒業生か、古本好きか、楽器好きに違いない。

僕はというと、まず中学・高校がここから近い（近いと言っても電車で2,3駅）。そして音楽好きだから、馴染みある。そして楽器好きだから多額の投資をした街です。さらに、大学時代には古本集めにハマっていた。ともかく、よく知る街です。

「山の上ホテル」の看板は、この街に行くたびに見かけていたが、下倉楽器やディスクユニオンの看板のほうに輝いて見えた。レコード探しや、楽器を眺めるのが楽しかったわけです。いったい、何年になっただろう？この街で過ごした時間は？

井の中の蛙とはよく言ったもので、僕は「御茶ノ水」について、まだ何も知らない。この先も、わからないかもしれない。けれど、この街で結婚式をしたことにより、つながりは出来た。それが気持ちいい。

大量消費社会が嫌になり、よく何もない外国に行き、質素な暮らしをして、自然本来の生き方をしているという人がいる。その外国で生まれた人は、世の中に大量消費社会があること知らず、必要なことをして暮らしている。こういう考え方の人がいて、好きにしてもらっていいと思う。。が、しかし！！御茶ノ水のディスクユニオンの中古レコードコーナーに付加価値を付けて値段を上げるのはやめてほしい！

その昔、僕が若かれし頃、中学の頃？20年くらい前。。（そんなに前なのか！）レコードを買うのは物好きくらいだった。とくにロック全盛期の時代のレコードは、昔は相当売れたのか？たくさん売っていた。クラブトーンもジミヘンも100円で買えた（笑）それが今じゃあ1500円だって！新品で復刻盤が買える値段だ。

結局のところ、大量の物に触れたから、その物の価値がわかるというもんだ。それでいて、人の一生の時間を使っても、ありとあらゆる事の物に触れることは出来ない。そんなに時間がないのだ。僕で例えるなら、せいぜい御茶ノ水で見てきたギターとレコードだけかもしれない。

そんな、これまでの人生が詰まっているような街で結婚式が出来たのは、人と物に支えられたからだと思う。やっぱりジミヘンはすごいなあ。



「番外編」

大量消費で思い出したが、コストコに行くと、誰がこんなに食うんだというくらいのパンとかチキンが売られています。マフィンもうまそうなのに、なぜ7個も入ってるんだ！買ってでも食べきれないぞ！洗剤も何だあれは！巨大すぎて使いにくい。コストコは行っても買うものがシリアルのパティーBOXしかない。

ふと思い出したんですよ、高校の頃、アメリカにホームステイした時に「TaKa(自分のあだ名)このスーパーなら何でもそろぞ！」と連れて行ってもらい、買ったのはシリアル2つだけという記憶。。未だに何も変らんです。

結婚式の写真は小さめに。。恥ずかしいのと、奥さんに肖像権で訴えられないようにします（笑）